

垂水

史談会報

第 70 号
2025 (令和 7) 年
9 月発行

【報告】

盛況！「戦争体験を聴く」会

戦後 80 年をむかえるこの夏、8 月

3 日、市民館大ホールで「戦争体験を聴く」会を開きました。「1945 年 8 月 5 日の垂水空襲を忘れない」という思いで長年にわたって続けられてきた垂水史談会の大切な取り組みです。今回は、垂水空襲を体験された柳田忠さん（90 才）と林順子さん（93 才）の二人に、空襲の様子や当時の生活について語っていただきました。林さんは、空襲で自宅の屋根に火が付き家族がバケツリレーをして消火して全焼を免れた経験話を話してくださいました。戦争のころ終原に住んでいた柳田さんは、終原から見えた垂水空襲の様子や当時の生活の様子を語られました。「元氣な男性は兵役でいなかったため、救助や復旧作業の人手が足りなかった。」「イモを収穫時期まで待たずに取って食いつなぐ状況だった。」など、生々しい経験が語られました。今年は例年よりはるかに多い 48 人という参加者で、そのうち小学生が 8 名参加してくれたのは、うれしいことでした。しかし、中・高生や 20 代の若い世代の参加がなかったことは、「体験の継承」という点から課題としてあげられます。今後、広報の方法をさらに工夫していかなければならないと思いました。



(古場 昌彦)

参加者の感想より

・この垂水でも空襲による被害があったことや戦時中の事などの話をきくことができたので、今日のことをしっかり覚えておきたいです。(小学生)



・昨年、戦争のげきを見て、戦争のくるしさがわかって、もっと知りたいと思って来ました。はじめて知ったことがほとんどだからきょうみぶかいし、ウクライナとかさねてみると、ウクライナの人たちのくるしさがよくわかった。(小学生)

・文字として歴史を知ってもどこか現実味がなかったりでしたが、実際にその当時に生きていた方のお話を聞き、心が動くような感じでした。貴重なお話を聞けてよかったです。(30 代)

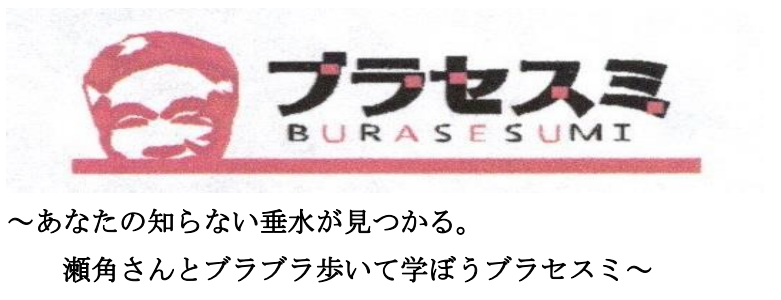
・実際に、戦争の時代を生きてこられた話を聞けてとてもよかったです。垂水に住んでいても空襲があったことを知らなかったの、テレビの中での話ではないのだと実感できました。終原に海軍の防空壕があったのを知って、私も見てみたいと思いました。他の戦争遺跡も見てみたいと思いました。(40 代)

・とても大切な企画だと思う。是非続けていつていただきたい。(年に一回でなく) 「子どもは大人の言うことを信じて行動するしかなかった。教育の影響は大きい。自分で考え、行動できる教育が必要。」という言葉が印象的でした。戦争体験を聴くことを「あのころ」のことで終わらせないで、次世代がどう引き継ぐかにつながることを望みます。(60 代)

△下へつづく△

・自分は 70 代です。8 月 5 日が垂水空襲の日と今日初めて知りました。若い頃、満州から命からがら帰国した叔母らが垂水の地を踏んだ時に、垂水は大空襲をうけ、焼け野原であると聞かされ、「実家の母や妹は？」と人に尋ねても分からず(旧専売公社の近くに住んでいました。)叔父のつてをたよって、志布志の方へ逃れたと話を聞きました。実家の母(祖母)や妹(私の母)は、市木の知人をたよって、そちらの方へ疎開したとの話も聞きましたが、よく考えてみると大変なことが起きていたのですね。やっとながって気がします。父はシベリア抑留を経験したのですが、寡黙な人で多くのことを語ることもなく、父の苦勞が忍ばれます。今日は、貴重な経験をうかがうことができてよかったです。ありがとうございました。

まち歩き講座 第3回



～あなたの知らない垂水が見つかる。

瀬角さんとブラブラ歩いて学ぼうブラセスミ～

まち歩き講座(通称 ブラセスミ) 第3回目は、八月二十四日、境地区をブラブラしました。参加者は、二十三名。3 回目にして、ようやく雨にじやまされずに、まち歩きを楽しむことができました。

スタートは、老神(おいがみ)神社。まずは、垂水市内 10 カ所の神社の官司を務める隈元信さんから老神神社について説明がありました。言い伝えでは、境地区は、大火災があり、神社も、昔の品物は失われて古い物は残っていないそうです。ご祭神が猿田彦命であるためなのか、「境地区に猿が姿を現すときには、必ず火事が起こる」と言われていたそうです。



それから、すぐ近くの旧国鉄・大隅線の境駅跡(いまは桜公園)を経て、ふだんあまり入ることのない境の集落の路地を歩きました。境地区出身の隈元さんから、「自分が小学生のころは、境小学校は 600 人くらい子どもがいた。」という話がありました。児童数減少で境小学校が休校になっていることを思うと複雑な気持ちになります。また、「戦後境浜の商店地図」を見ると、国道沿いに商店が立ち並び、旅館 2 軒、銭湯 2 軒、映画館 2 軒、理容院(床屋・パーマ屋) 4 軒、パチンコ屋もあり、生活にも娯楽にも十分な繁華街という様相だったことが分かります。しかし、今残っているのは、森伊蔵酒造くらいです。♪むかしのひかりい 今いずこ♪

今回は、歴史だけでなく、瀬角さんの植物のレクチャーや境地区の方言のレクチャーあり、蝶にくわしい市来恒男さんの蝶のレクチャーありと、これまでとはひと味違った楽しみがあったまち歩きとなりました。

(古場 昌彦)

△まち歩き講座△

第四回 九月二十八日(日) 午前 9 時中俣公民館集合

(国道から今宮神社の方へ入ってください。)

※西福寺跡、田の神 6 号のほか、集落内などをブラブラします。

午前十一時から十一時半ごろ終了予定。

★天候によっては、中俣公民館で座学になります。悪しからず。

★史談会会員は、いつでも参加できます。

◆2025夏のあれこれ・

① 史跡清掃 8月10日

島津墓所、お長屋周辺、殿様水周辺の清掃を行いました。十五名の方が参加してくださいました。ご苦労さまでした。きれいな環境でお盆をむかえられました。



② おもてなし隊の歴史学習 8月16日



小・中・高生、12名参加。
高嶺光佑さんが指導。

③ 垂水カルタでかるた大会 8月24日



真宗寺にて

垂水島津家墓所発掘調査の現地説明会

垂水島津家墓所では、災害復旧に伴う発掘調査を実施しています。七月三十一日、令和七年度発掘調査成果の現地説明会が開催されました。現地説明会では、児童生徒二十四名、大学生以上の大人二十名、計四十四名の参加がありました。

令和七年度の調査では、昨年度に新たに見つかった石造物が、「墓所が作られた当時の境界線として機能していた」らしいことが明らかにになりました。これは墓所の作られ方を知るうえで重要な情報です。

また、砂の堆積の様相から、「墓所が作られる前、この土地で大規模な水の流れがあった」こともわかりました。それも台地側に厚く砂が堆積しているため、川の氾濫が台地にあたって逆流した、海の方から大津波がきた、あるいは人工の水路が決壊した、などの背景が推察されます。さらに、その砂の堆積の一部に、火山灰が主となる層の堆積がありました。まだ理化学分析はできていませんが、桜島火山灰の可能性が高いと思われます。そうすると、大噴火と一緒に津波が来た？といった想像もできます。なにより、それだけの大災害だと記録に残っているどれかの可能性が高く、墓所造営の年代を考えるヒントになります。

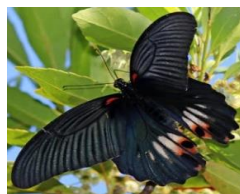


発掘調査ではこのほかにも、江戸時代の花入や香炉、柱の跡などが見つかっており、この史跡について考えるうえで、大きな成果となりました。今後、斜面への工事を行い、来年度には修理したお墓を組み立てなおして、災害復旧事業は大方完了する見込みです。
(文化財専門員・高嶺光佑)

研究ノート 蝶の話

第2回 ナガサキアゲハ

最近少なくなりましたが柑橘類によく飛んできます。日本でも最大級の蝶のひとつで翅を広げると10センチを超えるものもいます。名前はシーボルトが長崎で最初に採集したことに由来します。オスは黒が基調で後翅が青黒くメスは①後翅に白と赤の斑紋があります。アゲハチョウ類は、ふつう③で観るような後翅に尾状突起がありますが、ナガサキアゲハにはこれが無いのが特徴です。ただしごく稀ですがメスにだけ③のような有尾型もいます。もし見つけたら幸運が訪れるかもしれませんよ😊
また、本土南端や南西諸島へ行くに従いメスは②のように翅が白化を増していきます。それはまるで白いレースをまとう貴婦人の姿そのものです。
(市来 恒男)



メス①



↑②メスの白化型



↑③メスの有尾型



オス

垂城三十六歌撰 その3

夕落葉 平季道

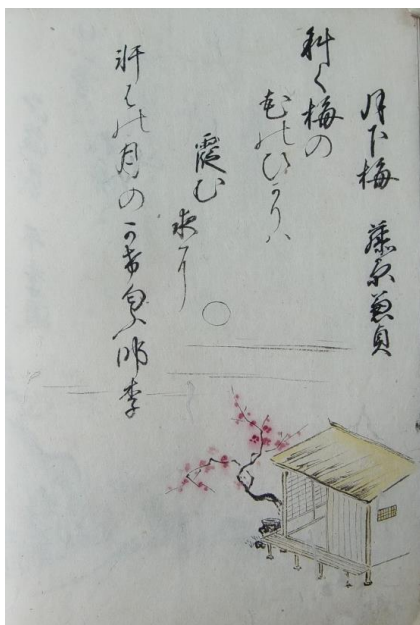
(翻刻・瀬角龍平)

ゆふ暮は 猶身を
しほる山かせに
おもひミたれて
木葉ちる
なり



月下梅 藤原兼貞

さく梅の
花のひかりハ
霞む夜に
軒はの月のかけ匂ふなり



垂水では、はやくからすぐれた歌が数多くよまれてきました。1835年に編纂された「浪の藻屑」には、垂水領主から町人まで165人の名と2000首の歌がしるされています。その中から、特に秀でた36人を選んで「垂城三十六歌撰」と称しました。